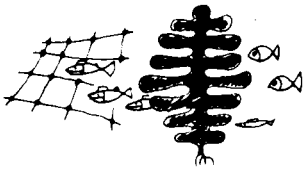
道北の漁業とさけ・ます



坂　野　栄　市

はじめに

昭和30年を境として，忽然と鰊がその姿をけした。道北（こゝでは宗谷，留萌両支庁管内をいう）はかっての鰊黄金時代の中心地域であり，それだけに，道北の漁業の苦難は，この鰊の去ったときからはじまった。

鰊全盛期の各地域の漁業経営の詳細は知らないが，一年の経費と税金を，鰊漁だけで充分まかなえた，ということを聞いたことがある。今年の3月はじめに，増毛港の目と鼻のさきで，産卵鰊がとれた。回遊範囲のせまい，湾鰊だという人もある。味はいまひとつしまらないが，雌一尾300円にもつくとなれば，鰊への郷愁どころではないわけで，多獲を期待したいものである。

それはそれとして，多くの道北の道産子を，二代，三代にわたって育てた鰊漁ではあったが，鰊のおわりは，一方では各組合に多額のこげつき債権を残し，他方では好むと好まないとにかゝわらず，しかも急速に，漁業の多様化をもたらした。ただ，鰊以後の漁業が大きく変ったのは，観念的には解るのであるが，どのように変ったのか，現状はどうなのか，というようなことをこゝで云々するのはもちろん私の任ではないし，そのつもりもない。こゝでは，手もとにある資料をもとに，道北の生産魚種とその中の一つであるさけますといったものについて，若干の数字をあげることと，さけます増殖の必要をうったえたいだけである。そのため，いささか手前みそをならべることになるかも知れないが，あしからずご容赦ねがいたい。

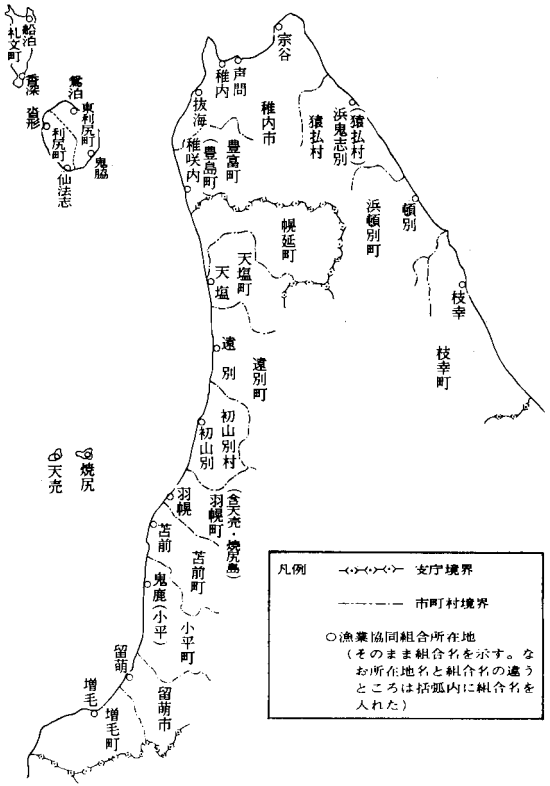
道北の主要魚種

道北の沿海は，2市，13町，2村にわたり，漁業協同組合（業種別，水産加工，生産などの組合をのぞく）は24をかぞえる（第1図）。西側は北部日本海，東側は北部オホーツク海で，これが宗谷海峡を介してつながっている。前者は対馬暖流に，後者はオホーツクの冷水にあらわれているので，生物相も多様で棲息環境も複雑である。

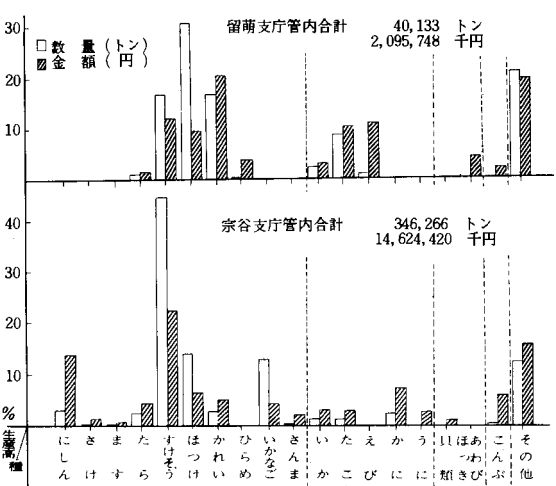
沿岸の海底は，大まかにいえば，本道側は砂地が多く，この間に，枝幸，稚内それに羽幌以南の海岸ぞいに岩礁地帯がとびとびにはさまっている。離島はいづれも岩礁地帯である。このような底質と海の深浅，海流のちがいなどが，それぞれの地先の生物相に反映して，地域の漁獲物を特徴づけている。そして更に，大きな港を根拠にした沖合漁業がこれに加わってくる。

道北の漁獲物の生産高（44年）を主要なものについて，種類別にみれば第2図のとおりである。単一種類としては，魚類では，すけそうだら，ほっけ，かれい，水産動物では，いか，かに，たこ，えび，うに，藻類では，こんぶ，そしてあわび，ほたて，ほっきを主体とした貝類ということになる。

いま，かっての鰊と比較する意味で，単一魚種として比較的優勢なすけそうだらを例にとれば，宗谷，留萌両支庁を合計した水産物



第1図　宗谷，留萌支庁管内沿海市町村図



註：「宗谷の水産」（45年版，宗谷支庁）及び「留萌の水産」（45年版、留萌支庁）による

第2図　支庁管内別生産高（昭和44年）

の総生産額に対する，すけそうだらの金額（両支庁合計）の割合は21.2%となる。他方北部日本海の旧鰊地帯のうち，宗谷と天塩両水産会部内を合した鰊漁業（定置と刺網を合した）とその他の漁業の合計の中でしめる鰊漁の金額の割合は54%（大正13年），また，昭和28年の宗谷，留萌両支庁合計の同様な鰊漁の割合は40%となっている。なお更にこれが昭和33年には10%をわるまでに落込んでいる（北海道沿岸漁業資源調査並びに漁業経営試験報告書，昭和42年，道立水試）。なお，全道の水産物の総生産額の中で道北のそれが30%以上をしめるのは，北海道の中でもさらに北方権のほっけ（60%），たこ（47%），たら（34%）で，すけそうだらがこれに続いている(鰊は一応除外した)。

道北の漁業

道北の漁業生産の中では，沖合漁業（こゝでは沿岸に対する沖合という意味で，沖合底曳網，沖合のたらばがに網，沖刺鰊網などの漁業をいう）の比重は大きい。たとえば44年の宗谷支庁の統計からみると，遠洋底曳網，沖合底曳網，鰊沖刺網の三者の合計は，総漁業生産の，重量にして86.5%，金額にして59.6%をしめている。同じく44年の留萌支庁の場合でも，沖合底曳網はそれぞれ58%（重量）および26.6%（金額）である。

これら沖合漁業の基地は，枝幸，稚内，留萌，増毛の各港で，それ以外の地域では留萌支庁管内では，15トン未満が動力船の95%ちかくをしめ，その主力は5トン未満で，なかでも，1～3トン未満がもっとも多い。また宗谷支庁管内では，15トン未満が90%以上で，5トン

未満が主力となり，なかでも1～3トン未満がいちばん多い。このように，生産高だけからみれば大型船による漁獲が，道北の漁業生産の大きな部分をしめ，さきにあげた道北の多獲種も魚類の大部分はこの沖合漁業によっている。

地域の漁業

はじめにおことわりしたいのは，漁獲統計についてである。この種の統計は，かなり詳しいものが発表されているが，地域別ということになると，ほとんどが市町村単位である。しかし，ここに云うところの地域の（もっとも沿岸寄りのと云う意味の）漁業ということになると，市町村単位ではどうしても少量の魚介類は「その他」に入れられて，名前が出てこない場合がある（たとえば，かじか，そい，ふぐ，がじ，ほやなど）。なぜそのような魚介の名前が出てこなければならないのか，といわれるとこまるのであるが，しいていえば，いまの漁業は金になるものならあらゆるものを利用しなければならない，ということと，これらの中にさけますが入ってきたら，さきにあげたような少獲魚種はこれからどんなものに変っていくだろうかという興味から，といったらいいかもしれない。

それで，この意味からこゝでは，漁業協同組合の取扱高（業務報告書による）をもってきたものである。ただ，組合の取扱高は鮮魚介藻と水産製品に分れており，魚種が重複するものもあり，種類ごとの，同じ条件での重量を出すわけにはいかないことなどもあって，水産製品は除外（但し，藻類は種類も余りなく，このようなこともまずないのでぬき出した）したものについて，種類別にして地域（ここでは組合単位）による漁獲物のちがいとしてあげたのが第1表である。このなかの百分率は，いずれもいまいったような意味の数字であり，正確なものではないが，漁獲物の傾向は出ているのではないかということで，あえてあげたものである。

第1表　地域による漁獲物のちがい

組合名	種類別割合(%)			種類別内訳
	種類	重量	金額	
枝幸	魚類	45.9	53.4	さんま(50.1)　さけ(20.6)　かれい(13.3)　にしん(12.0)　ます(1.7)　その他(2.3)
	水産動物	53.3	45.6	いか(60.0)　けがに(21.7)　たこ(8.3)　ずわいがに(7.8)　たらばがに(2.2)
	藻類	0.1	0.4	こんぶ(84.3)　その他(15.7)
	貝類	0.7	0.6	ほたて(60.9)　ほっき(39.1)
頓別	魚類		41.4	さけ(45.5)　さんま(37.5)　ます(7.9)　かれい(6.4)　その他(2.7)
	水産動物		58.9	けがに(69.1)　いか(24.6)　たらばがに(3.4)　たこ(2.9)
	藻類		—	
	貝類		—	
猿払村	魚類	40.4	43.2	さんま(35.9)　さけ(32.7)　にしん(13.0)　ます(9.9)　かれい(5.2)　ふぐ(1.9)　その他(1.4)
	水産動物	56.1	54.2	けがに(44.8)　いか(22.2)　ずわいがに(20.1)　たこ(7.0)　たらばがに(5.9)
	藻類	0.1	0.1	雑こんぶ(100)
	貝類	3.4	2.5	ほたて(77.0)　ほっき(23.0)

組合名	種類別割合(%)			種類別内訳
	種類	重量	金額	
宗谷	魚類	11.2	22.3	さんま(41.3)　さけ・ます(23.9)　かれい類(22.3)　にしん(12.5)
	水産動物	84.2	64.2	たこ(59.4)　けがに(25.0)　ずわいがに(10.0)　うに(3.4) たらばがに(1.7)　いか(0.5)
	藻類	4.6	13.5	こんぶ(93.7)　もづく(6.3)
	貝類	—	—	
声問	魚類	20.8	5.5	かれい(53.7)　ます(19.7)　あぶらこ(5.4)　ひらめ(4.8) そい(4.3)　かじか(2.7)　さけ(2.4)　その他(7.0)
	水産動物	32.8	16.0	たこ(78.8)　うに(14.8)　なまこ(5.9)　ほや(0.5)
	藻類	44.9	77.7	こんぶ(100)
	貝類	1.5	0.8	ほっき(79.9)　つぶ(20.1)
稚内	魚類	46.6	21.2	にしん(43.0)　すけそう(35.8)　さんま(4.4)　たら(3.6) そい(2.3)　さけ・ます(1.1)　その他(9.8)
	水産動物	40.7	35.1	たらばがに(65.7)　いか(15.1)　ずわいがに(12.4)　うに(3.9) たこ(2.9)
	藻類	12.6	43.6	こんぶ(100)
	貝類	0.1	0.1	ほっき(100)
抜海	魚類	63.6	32.0	ひらめ(44.9)　かれい(37.1)　ます(7.0)　そい(6.2) ふぐ(2.8)　さけ(1.5)　その他(0.5)
	水産動物	5.4	0.4	ほや(100)
	藻類	31.0	67.6	こんぶ(100)
	貝類	—	—	
豊富町	魚類	3.3	25.1	さけ(40.9)　ます(30.7)　雑魚(28.4)
	水産動物	4.7	5.5	たこ(100)
	藻類	—	—	
	貝類	92.0	69.4	ほっき(63.7)　えぞばかがい(36.3)
天塩	魚類	62.1	80.4	かれい(62.3)　ひらめ(14.9)　さけ(8.4)　ます(7.4) その他(7.0)
	水産動物	4.8	3.7	たこ(100)
	藻類	—	—	
	貝類	33.1	15.9	あかがい(75.1)　しじみ(18.1)　ほっき(6.8)
遠別	魚類	11.9	27.9	かれい(63.4)　さけ・ます(17.8)　ひらめ(16.7)　その他(2.1)
	水産動物	16.5	21.6	たこ(100)
	藻類	—	—	
	貝類	71.6	50.5	えぞばか貝(79.5)　ほっき(20.5)

組合名	種類別割合(%)			種類別内訳
	種類	重量	金額	
切山別	魚類	59.8	58.5	かれい(42.9)　ひらめ(21.3)　ふぐ(19.7)　まぐろ(7.6) その他(8.5)
	水産動物	40.2	41.5	たこ(100)
	藻類	—	—	
	貝類	—	—	
羽幌	魚類	75.2	60.8	かれい(65.7)　ひらめ(10.6)　かじか(2.4)　そい(1.9) その他(19.4)
	水産動物	24.8	38.8	えび(54.9)　たこ(30.6)　いか(13.4)　なまこ(1.1)
	藻類	0.04	0.4	こんぶ(100)
	貝類	—		
苫前	魚類	62.0	39.9	かれい類(65.9)　すけそう(14.8)　はたはた(5.2)　がじ(2.4) そい(2.0)　ほっけ(1.3)　ます(1.2)　その他(7.2)
	水産動物	35.5	47.7	えび(50.6)　たこ(33.0)　いか(16.4)
	藻類	2.2	11.6	こんぶ(99.0)　生のり(1.0)
	貝類	0.3	0.8	ほっき　他
小平	魚類	30.7	36.2	かれい(48.8)　ひらめ(43.6)　その他(7.6)
	水産動物	55.8	35.5	たこ(83.0)　うに(13.5)　なまこ(3.5)
	藻類	4.4	16.5	こんぶ(100)
	貝類	9.1	11.8	ほっき(63.9)　いがい(22.6)　あかがい(12.4)　あわび(0.9) しろがい(0.2)
留萌市	魚類	25.2	31.4	かれい類(23.8)　ほっけ(18.6)　ひらめ(18.3) さけ・ます(12.0)　その他(27.3)
	水産動物	72.2	58.2	いか(62.6)　えび(12.8)　たこ(11.1)　うに(10.9) なまこ(2.6)
	藻類	1.0	4.0	海藻類
	貝類	1.6	6.4	貝，つぶ類(69.6)　あわび(30.4)
増毛	魚類	72.3	43.1	すけそう(43.0)　かれい(25.7)　ひらめ(8.6)　はたはた(4.7) ほっけ(4.1)　にしん(2.3)　その他(10.5)　ます(1.1)
	水産動物	27.0	54.0	えび(55.4)　たこ(33.4)　いか(6.5)　うに(3.4) なまこ(1.3)
	藻類	0.5	0.7	こんぶ(71.3)　てんぐさ(27.7)　わかめ(1.0)
	貝類	0.2	2.2	あわび(100)
鬱泊	魚類	51.0	19.8	かれい(37.1)　ます(29.5)　すけそう(11.7)　かすべ(5.1) おおなご(3.5)　たら(3.3)　ほっけ(1.8)　雑魚(8.0)
	水産動物	36.1	31.6	たこ(67.2)　うに(31.9)　いか(0.9)
	藻類	11.9	44.6	こんぶ(98.5)　わかめ(1.5)　てんぐさ
	貝類	1.0	4.0	あわび(100)

組合名	種類別割合(%)			種類別内訳
	種類	重量	金額	
鬼脇	魚類		47.7	かれい(61.6)　にしん(18.0)　ます(10.0)　すけそう(7.2) ほっけ(1.2)　その他(1.9)
	水産動物		27.3	ずわいがに(52.4)　うに(18.2)　いか(16.8)　たこ(12.6)
	藻類		25.0	こんぶ(100)
	貝類	—	—	
沓形	魚類	90.2	71.7	にしん(31.2)　たら(28.2)　ほっけ(23.4)　すけそう(9.7) まぐろ(3.5)　ます(3.0)　かれい(0.5)　その他(0.5)
	水産動物	8.4	16.8	いか(51.3)　うに(38.4)　たこ(10.3)
	藻類	1.1	9.4	こんぶ(74.6)　わかめ(25.1)　てんぐさ(0.3)
	貝類	0.3	2.1	あわび(100)
仙法志	魚類	90.9	25.6	ほっけ(65.3)　ます(29.8)　かれい(1.7)　さんま(1.2) こうなご(1.0)　その他(1.0)
	水産動物	3.6	27.3	うに(80.7)　いか(11.8)　たこ(7.5)
	藻類	5.1	43.4	こんぶ(80.6)　わかめ(18.3)　てんぐさ(1.1)
	貝類	0.4	3.7	あわび(100)
天売	魚類	46.1	18.0	かれい(30.4)　ほっけ(23.8)　ます(11.0)　いかなご(8.1) まぐろ(6.6)　すけそう(3.6)　その他(16.5)
	水産動物	33.7	23.6	たこ(48.4)　うに(32.0)　えび(18.1)　いか(1.4)
	藻類	14.6	27.1	こんぶ(88.5)　わかめ(11.2)　のり(0.3)
	貝類	5.6	31.3	あわび(100)
焼尻	魚類	58.1	31.4	いかなご(83.3)　かれい(8.2)　ます(3.2)　ほっけ(2.8) ひらめ(1.0)　そい(1.0)　その他(0.5)
	水産動物	26.1	21.8	うに(51.2)　たこ(48.8)
	藻類	9.9	22.5	わかめ(51.7)　こんぶ(48.3)
	貝類	5.9	24.3	あわび(100)
船泊	魚類		32.2	ほっけ(42.4)　たら(22.9)　ます(18.6)　かれい(8.1) そい(5.4)　その他(2.6)
	水産動物		34.4	うに(44.4)　たこ(39.7)　いか(15.9)
	藻類		26.2	こんぶ(93.5)　のり(3.3)　わかめ(3.2)
	貝類		7.2	あわび
香深	魚類	83.1	38.8	ほっけ(50.1)　かれい(23.7)　ます(9.2)　すけそう(7.3) いかなご(5.3)　その他(4.4)
	水産動物	15.4	49.3	うに(68.0)　たこ(29.0)　いか(3.0)
	藻類	1.2	9.0	こんぶ(85.1)　わかめ(14.6)　のり(0.3)
	貝類	0.3	2.9	あわび(100)

註. 1. 各組合の業務報告書（44年但し天売・焼尻は42年，また船泊・鬼脇は44年の計画書によった）をもとにした（海藻以外の水産製品は除外した）。
2. 種類別内訳は金額の多い順に列記した。括弧内の数字はその種類の合計額に対する金額百分率。

地先水面に岩礁地帯の多い地域（宗谷，声問，稚内，抜海，苫前，小平および離島など）では藻類の割合が多い。その主体はこんぶであるが，なかでも，声問，稚内，抜海といった道北の先端部を筆頭に，一部を除いた離島地域はこれが大変大きな比重をしめている。その他の南部の地域は，こんぶは全然ないか，あっても少量で，また品質も落ちるところから，金額的にもその割合は小さくなる。

貝類については，砂地にすむものと，岩礁地帯にすむものに分れるわけで，前者はほっき，ほたてが主体で，海藻生産地以外の各地域でとれる。しかし，日本海岸の北部の砂浜地域（豊富，天塩，遠別）を除いては，その割合は多いものではない。貝類の中でもほたてはオホーツク，ほっきは日本海といわれたものであるが，日本海のこの北部砂浜地域では，えぞばか貝がこれに代ってきている。後者は，あわびがほとんどで，その割合はとくに，天売，焼尻の両島で大きい。

水産動物は，各地域とも一部を除いては平均して重要な生産物はたこである。それ以外では，オホーツク海側のかに類と，日本海側のえびである。大きな回遊をするいかも重要な種類であるが，年によりかなり豊凶がある。離島ではうにが特徴的である。

魚類では，かれいが各地域共通の多獲魚種であり，これに日本海の本道側ではひらめ，そして離島では，ほっけが加わり，さらに，北の離島ではたら，すけそうだらが重要になってくる。

道北とさけます

北緯45°以北の海面とオホーツク海は，領海を除いてさけますの禁漁区になっていることから，道北のさけますの漁業は，定置，一本釣，日本海ますの各漁業と沿岸小定置，刺網による漁獲である。第1表の種類内訳の欄には，さけますをとくに太字で示したが，おおまかに分ければ，オホーツク海側から遠別地域にかけては定置を主にして，小定置，刺網による漁獲，それより南は小定置，刺網（一部日本海ます漁業）による漁獲，そして離島は，さらにこれに一本釣による漁獲が加わるということになる。

沿岸のさけます漁業は，他の漁業と同様に，年による豊凶の波はあるが，絶対量の少ない道北のさけます漁の中でも，比較的高い水準で安定しているといえるのは猿払以南のオホーツクである。沿岸のます漁は不安定であり，そして大きくは，隔年の豊凶の周期に影響される。

さけます漁の比較的多い，前記の地域では，魚類の中にしめる割合は高いが，この表に用いた44年は，さけますともにとくに豊漁の年であるので，平年はほぼ20％余りとみてよいだろう。このさけます漁も，宗谷海峡をまわって日本海に入ると，その水準は低くなるうえに，変動がより大きくなってくる。

道北のさけます漁が不振なのは，原因はいろいろあると思うが，有力な資源生産河川のないこと，というよりも，河川はあるが，それらに100％の能力を発揮させるまでに至っていないのが問題である。ふ化場もすでにその観点から，長期的な計画を進めているが，道北の場合さらに注目しなければならないのは「ます」である。

オホーツク海と日本海は，沿海河川で生産されるますにとって，大きな天然の飼育池である。これを利用しないではないのであるが残念ながら，いまのところ，全道的にますの種苗卵が非常に少ない。しかし手をこまねいているわけにはいかないので，僅かづつでもよいから道北の種苗は，自場でまかなっていく以外にないのである。とはいっても，最初はなんといっても，種苗の集中的な放流が必要なのは，道北に限らず，また，ますに限らないことであるが，道北の場合，日本海に大きくとび出している北の離島（礼文，利尻）を種苗生産の基地として考えてはどうだろうか。

両島とも大きな川がないため，河川そのものは大きな種苗生産を期待するには限度があるが，河川水を蓄養水だけに利用して，徹底的な海産魚からの種苗生産をはかるのである。つまり，海で成熟させるのである。離島はその地理的条件からみて，海面或は内水面でのいろいろな規制は，漁業者の協力が得られれば，部外の人の邪魔の入らない理想的な実験が出来ると思う。このことは島自体が，さきに云うところの〝飼育池〟そのものの中にとび出していることが，増殖上の利点になるかどうか，という興味も深い。

さいごになったが，第2表に，道北の主要水産物のkgあたりの単価（円）をあげた。地域別としては，各種類の多獲地域の代表といった意味であげたものである。平均して高いのは，えび，かに類，貝類，藻類である。魚類で高いのはひらめであるが，さけますはこれらの水産物の中でも上位に入るものである。この表に出てくる水産物の中で，最近になって人工増殖が行なわれ，一部で成果をあげているものに，こんぶ，ほたてなどがある。しかし，魚類ではさけますだけである。水産物はもともと価格の変動も少なくなく，漁業の適種として，なにをとるかはむづかしいところである。そしてまた，漁業の対象となるまでの生育期間も重要である。

さけは4年で成魚になるが，さくらますは3年，からふとますにいたっては2年で50cmあまりになるという驚異的な成長を示すさけますが，再び生れた河川に入るためにもどってくるというのは，まことに興味深い。そして漁業者にとっては，このうえない有難い性質であるといはなければならない。

第1表では，さけますがまばらにのっている。これが道北全地域にリストアップされ，そのうえ，さけますが水産物の最上位にランクアップされるようになるのは，道は近くはないが，夢ではない。それが，かっての漁業の大宗である鰊の去ったあとの，道北漁業のめざす姿であるべきとして，漁業者と一体となって，たゆまない努力をつみ上げていかなければならないと思う。

第2表　主要水産物の単価（円／kg）（44年）

種類 ＼ 組合名（地域）	魚類									水産動物	
	にしん	たら	すけそう	ほっけ	かれい	ひらめ	さんま	さけ	ます	えび	毛がに
枝幸	85				98		204	517	220		239
猿払	102				113			592	340		292
稚内	208	109	34				131				
香深				27	92		130		316		
天塩					103	466	143	671	570		
増毛	210	68	48	15	103	344	150	596	348	563	

種類 ＼ 組合名（地域）	水産動物					貝類			藻類	
	たらばがに	ずわいがに	いか	たこ	うに	あわび	ほっき	ほたて	こんぶ	わかめ
枝幸	287	79	105	102			207	104		
猿払	307	79	106	83			143	100		
稚内	164	77	89	93	783		214		523	
香深			45	69	1,352	633			428	482
天塩				67						
増毛			57	59		820				

註：組合の業務報告書の取扱高から。

（農林技官　天塩支場）